

足や肩の痛み 衝撃波で治療

高齢による足の痛み、スポーツによる体の不具合、骨折手術を受けても治りが悪い—こんな症状に手術をしないで効果のある治療が注目を集めている。「衝撃波治療」と呼ばれるもので、腎臓結石を破碎する医療機器を応用したものだ。保険適用されている疾患と保険外の疾患がある。

腎臓結石の破碎機器を応用

衝撃波治療は腎臓結石を手術をせずに体外から破碎する手段として始まった。それが整形外科の分野でも有効なことが分かり、2012年に保険適用となった比較的新しい治療だ。欧米では10年ほど前からスポーツ選手を中心に、有効で安全な治療として広がっており、米大リーグの大谷翔平選手も受けたことがある。

整形外科の衝撃波機器は、拡散型と集束型があり、集束型の方が高エネルギーで深部まで照射できる。患部に特殊な音速以上の圧力波を照射することで、痛みを感じする末梢神経の働きを抑制するとともに、圧力波による衝撃で細胞レベルの代謝を活性化し、新し

患部に照射 組織修復を促進

い血管をつくり、組織の修復を促進、痛みを軽減させる。

この集束型体外衝撃波治療器（BTL-6000フオーカス）を23年7月に道内で初めて導入したのは「我汝会さっぽろ病院」（札幌市東区）だ。

日本整形外科学会専門医で、同病院整形外科部長の浜口英寿医師によると、保険適用となっている難治性足底腱膜炎は、足底板や内服薬、湿布、注射などの保存療法を半年以上行っても改善しない人が対象となる。足底腱膜炎は、足裏の腱と骨の付着部に炎症が起き、かかと周辺に痛みが出る病気だ。起床後の歩き出しの際に、かかと周辺などが痛むが、しばらく歩くと和らぐのが特徴。長距離走やサッカー・ラグビーなどスパイクを履く選手、長時間の立ち仕事や歩くことが多い人、高齢などが原因となつて発症する。

同病院は年間150人ほどがこの治療を受けている。浜口医師は「衝撃波治

療は約7割の人に効果がある。関節、腱、筋肉の慢性的な炎症や痛みにも効果があり、治療は整形外科の他の多くの疾患にも有効」と話す。

具体的には肩関節痛、テニス・ゴルフ肘、ランナー膝、石灰沈着症（腱の周囲に石灰がたまる病気）、偽関節など。このうち偽関節は受傷後、半年を経過しても治らない骨折（骨折がつかないままの状態）で、衝撃波を受けることで2〜3カ月で治癒が期待できるケースもある。

治療は医師の診察を経て行う。1回当たり30分ほどで、外来で1〜2週間おきに計3〜5回受ける。衝撃波を当てている最中は鈍痛を伴うが、副作用はほとんどなく、運動制限、体に傷がつくこともない。治療直後から痛みが軽減し、足の治療では歩いて帰ることができる。

浜口医師は「我慢できる痛みの範囲でなるべく強い衝撃波の方が効果的で、早期の治癒につながる」と語る。

治療は整形外科を標榜していても行っていない医療機関があり、希望する場合は問い合わせた方がいい。

保険外診療の費用は施設によって異なる。我汝会さっぽろ病院の場合は1回5千円。

なお、がんの病巣部周辺や妊娠中の腹部周辺の治療は受けることができない。

（荻野貴生）



治療は患部に医療機器を当てるだけ



浜口英寿医師